

①日枝神社(祭神は、^{おおやつみみこと}大山祇命)

創建年代は不詳。神社の建つ高台を観音山と称し、山の下には観音堂がある。日枝神社・山王講が所有する山車^{えびす}と恵毘須の人形は、江戸時代の神田祭に用いられ、明治期に購入した。

山車は嘉永4年(1851)9月に、人形は文政12年(1829)9月に造られたとの墨書が残されており、歴史的価値も高い。この山車と人形は、市の有形民俗文化財に指定されている。

この人形は、鴨川市郷土資料館で常設展示しているが、「鴨川合同祭」の際には、市内をひきまわされる。

②熊野神社(祭神は、^{いさな}伊弉那岐命・^{はやたま}速玉男命・^{よもつことさか}泉津事解男命)

通称「権現さま」。南北朝時代の貞和4年(1348)に紀伊国(現・和歌山県)熊野大社の分霊を迎えて奉祀された。永禄年中(1558-69)に里見義弘夫人の祈願所となった。熊野信仰は和歌山の熊野三山を中心に広まった信仰である。

③神蔵寺(真言宗智山派)

市内、田原太田学の成就院末寺。本尊は大日如来。

神蔵寺の由緒について「千葉県管下寺院明細帳」・「鴨川町誌」には、南北朝時代の貞和元年(1345)8月に、法印源祐という僧によって開かれたと書かれているが、詳細は不明。

大正11年(1922)5月1日に創設された組合立長狭中学校(現・県立長狭高等学校)は、神蔵寺を仮校舎として開校した。校舎は、翌年の11月に神蔵寺の裏手(現在、亀田医療専門学校)に完成した。

★ 2月15日(お釈迦様入滅の日)に「^{しやかねほんま}釈迦涅槃図」を公開

神蔵寺は、通常は閉まっているが、^{じやうらくえい}常楽絵(涅槃会)の際、^{しやかねほんま}狩野派の絵師、白井休盛が描いた「^{しやかねほんま}釈迦涅槃図」が一般に公開される。

★ 2代伊八作「^{こうりつ}虹梁の竜」(獅子と象の彫物)が本殿にあり、見ることができる。

④観音寺(真言宗)

成就院の末寺。本尊は、聖観世音と不動明王。慈覚大師^{えんにん}円仁(794-864)の開基と伝えられているが、創建年は不詳。

観音寺入口には、市内横渚出身の烈女・畠山勇子の分骨を納めた墓碑がある。

畠山勇子は、明治24年(1891)5月にロシア皇太子ニコライが滋賀県大津で警備の巡査に切りつけられるという大津事件が起こった際、一身を捨ててロシア政府にお詫びの心を示すとし、京都府庁舎前で自決した。

★ 観音寺では、毎年、ひな祭りに畠山勇子の雛人形が飾られ公開されている。

★ 長狭観音 第九番

ご詠歌『てらのなも なにしおふたるかんのんじ ちかへのほども おもひやらるる』

⑤諏訪神社(祭神は、^{すわけんじや}建御名方命)

信州(現・長野県)諏訪大社の宮司であり、同国高島城主でもあった諏訪^{よりのぶ}頼吉の一族、高梨^{よりのぶ}頼延・望月^{よりのやす}頼安が従者らを引き連れ、安房国長狭郡に移住。芝地を開発し、田畑を起こし、この地に生活の場を築いた。永和3年(1377)、社殿を建てて、郷里「諏訪大社」の分霊を迎えた。明治2年(1869)維新の際、花房藩庁の布令により社格を定めて本社に列し、諏訪神社と呼称した。

諏訪神社・諏訪講が所有する山車^{だし}と神功皇后^{じんくうこうごう}・源^{みなもとのよりのよし}頼義の人形は、江戸の祭の代表とされる^{かんだ}神田祭に用いられており、明治期に購入した。江戸時代後期に作られたという歴史的価値と、現在でも旧鴨川の合同祭礼にひきまわされていることから、市の有形民俗文化財に指定されている。

この人形は、鴨川市郷土資料館で常設展示しているが、「鴨川合同祭」の際には、市内をひきまわされる。

★ 初代伊八作「本殿の竜」があるが、本殿内のため普段は見ることができない。

★ 初代伊八作「波と雲」は、南北壁面の外から見ることができる。

鴨川市教育委員会 生涯学習課
文化振興室 郷土資料館
鴨川市横渚1406-1
電話 04-7093-3800
平成25年2月
鴨川市郷土資料館ボランティア作成